

川村 欽吾（かわむら・きんご）

1、プロフィール

モダニズムの系譜に属する詩人。郷土研究家。早稲田大学在学の頃から詩作を始め、戦前は中央詩誌で戦後は青森県で発表した。県詩人協会会長となり、県詩壇の発展に貢献した。

<生没>

1908(明治 41)年7月2日 ~ 2001(平成 13)年8月7日

<代表作>

『郷土の先人を語る(7) 兼松石居 平尾魯僊 秋田雨雀』(共著)

詩「空への献辞」(「詩法」創刊号)

<青森との関わり>

太平洋戦争下、仕事の関係で青森県に移る。昭和 26 年から弘前高等学校教諭。定年退職後、東奥義塾高校講師。

2、作家解説

本名、金吾。明治 41(1908)年7月2日山形県東田川郡余目町大字余目字町 20 番地に生まれる。尋常小卒の後、鶴岡工業学校へ進み、2年次担任教師・春山駿助と出会い文学的影響を受ける。卒業後、高等小学校准訓導心得となるが、兵役のため退職する。除隊後、二松学舎専門学校入退学、昭和6年、早稲田大学高等師範部入学。在学中から詩作活動を開始し、大正 14 年7月から発行されていた「詩之家」同人となる。

時代は昭和3年9月創刊の「詩と詩論」に代表されるモダニズム詩隆盛であった。川村は昭和7年5月創刊「MADAME BLANCHE マダム ブランシュ」同人、また昭和9年8月創刊された春山行夫編集の「詩法」の創設に参加、同人となって詩を発表した。

その後、「蒼氓」(昭 10)の石川達三も同人だった「新早稲田文学」、「MADAME BLANCHE」の後身誌「二十世紀」、「詩と詩論」「詩法」の後継誌として昭和 12 年 5 月創刊された「新領土」などに属した。

昭和 10 年早稲田卒業。10 月逓信省電務局企画課を皮切りに職場が転々と変わり、昭和 19 年 5 月青森航空機株式会社総務部庶務課長。昭和 25 年 1 月、青森県浪岡高等学校教諭となり、26 年 5 月から弘前高等学校で 44 年 3 月定年退職まで勤続した。

青森県居住後は、特定の同人誌に所属することはなかったが、青森県詩人協会(現、詩人連盟へ改組)の中核として、機関誌「年刊詩集」と同協会発行の季刊誌「らしん」に詩を発表した。昭和 37 年 4 月～41 年 3 月、同協会会長、その後 3 年間顧問を務める。詩集は編まれていない。

また森鷗外研究のほか、陸羯南、兼松石居など、青森県の先人たちの足跡をたどる研究にも実績を残している。

3、資料紹介

○「詩法」創刊号

雑誌

1934(昭和9)年8月1日

250mm×190mm

「詩と詩論」の後継誌的詩誌。春山行夫編集。安西冬衛・村野四郎らの同人以外に伊藤整・西脇順三郎らが寄稿、昭和 10 年 9 月までに 13 号を発行。欽吾は「空への献辞」(6 連構成)を 2 ページにわたって発表。以降、2・3 号に 1 回ほどの割で詩を発表した。